

クセになる。八尾の人、まち、自然、うまいもん

Yaomania

【ヤオマニア】Vol.9 2015年・夏号

祭の法被、大競演。

恩智祭り、高安祭り、
渋川神社夏祭り…
各地区の祭りの顔、
法被74点が勢揃い。

2015河内音頭 盆踊りカレンダー

ヤオマニアの横顔
天童よしみさん(歌手)



Yaomania Vol.9 夏号 2015年7月1日発行 発行(社)八尾市観光協会 八尾市北本町2-1 ベントプラザ20号 TEL 072-997-6226 編集 140B 定価 0円 Printed in Japan

八尾の
魅力

第38回八尾河内音頭まつり

今年で第38回目を迎える八尾河内音頭まつりは、
平成27年9月6日(日)に久宝寺緑地で開催します。
多くの方にご来場いただくため、八尾河内音頭まつりPR大使を任命しました。



3年連続のPR大使ですが、センターになれません…来年こそは(笑)

中高生の吹奏楽やキッズダンスで八尾の若い世代が輝いています!

八尾の伝統!本場の河内音頭をぜひ体感してください!

マルシェdeオンドは八尾のうまいもんが盛りだくさん!

- 八尾河内音頭まつりPR大使プロフィール(写真左から)
- 安田 欣司さん
J:COM TV『ふわっと…欣様』
FMちやお『安田欣司バラエティハミダシラジロ!』
 - 平田 理さん
J:COM TV『アリオでござる!』
FMちやお『ワンプレート★アリオ』
ゲスト出演
 - 小田 ゆりえさん
アリオ八尾イメージガール
J:COM TV『アリオでござる!』
FMちやお『ワンプレート★アリオ』
 - 城戸 優子さん
アリオ八尾イメージガール
J:COM TV『アリオでござる!』
FMちやお『ワンプレート★アリオ』

《第38回 八尾河内音頭まつり開催概要》

※陸上競技場

○河内音頭グランプリ	12:00~15:30
○河内音頭大盆踊り大会	16:00~20:30
○マルシェオンド	10:00~20:00

※軟式野球場

○吹奏楽	10:00~13:30
○ダンスコンテスト	14:30~18:30
○リサイクルフェア	10:30~16:00



会場へは公共交通機関をご利用ください。
近鉄八尾駅・地下鉄八尾南駅から無料シャトルバスを運行します。

シャトルバス運行スケジュール

近鉄八尾駅バスターミナル	午前8時30分~午後8時
会場(久宝寺緑地)	午前8時50分~午後9時35分
地下鉄八尾南駅	午前9時35分~午後8時05分

(スケジュールは予定です)

主催・お問い合わせ
八尾河内音頭まつり振興会 072-994-5741

NEW デザイン!!

○販売価格 各1,700円(税込)
○色:白・黒・ワインレッドの3色
○サイズ:各色S~4Lの6サイズ

○販売先
株式会社 タケヒロヤ
八尾市本町5-5-25
※ファミリーロードさのかわ南通
072-922-4781
9:30~19:00
毎週水曜日定休日

☆八尾市観光案内所でも販売
八尾市北本町2-1 ベントプラザ20号
近鉄八尾駅高架下
072-997-6226
10:00~18:00



背中が語る 八尾の祭。

見よ！この壮観で洗刺とした法被の数々。
人間の体で一番無防備な背中に紋章を記すことで身を守り、穢れを祓い、心意気を後押しするのが法被の役割だ。地区の歴史や熱い思い、美学が凝縮された法被たちが夏と秋の祭りで躍動する光景は、ぜひ現場で体感すべし！

取材文：中辻えり子(祭写真も) きむあつこ 写真：北村茂章(法被) 内池秀人(祭)
▼ふとん太鼓 ▼だんじり ▼まくら太鼓 ▼神輿のみ

容赦なく西日が降り注ぐなか、巡行を続ける布団太鼓

夏祭・秋祭 法被顔見世 七十四選。

恩智祭り 恩智神社

8/1(土)
千年以上も前、神の力で疫病や災いを鎮めようと大阪の住吉大社まで神輿の巡行が始まった。神輿の前を太鼓の音で邪気を祓い清める布団太鼓が巡行するようになったのは、江戸時代中期から。数百人に及ぶ担ぎ手と、見守り取り巻く人々の熱気であまが包まれる。
法被は波の上を跳ねる兎。兎は神社の神様のお使いで安全に道案内をしたことから、恩智祭りの若衆が着る甚平や法被には背の模様を兎が施して、神輿と布団太鼓が無事安全に巡行するようにとの願いが込められた。受け継がれる伝統の模様だ。



高安の稜線に雨雲。梅雨明け前の祭りならではの

教興寺祭り 岩戸神社

7/4(土)5(日)
山坂の参道を登ると、緑に包まれた神社で日の光を受けて神輿が光る。三人の宮司にも見守られながら、神輿と布団太鼓の巡行の先は近鉄高安駅まで続く。法被の裾柄は波。大紋(背中部の大きな紋様)は十六弁の菊の花とそれを包むように両側から菊の葉(抱き菊の葉)。



北木の本子供会 榎本神社

7/12(日)
祭りの午後、子どもたちはタオルを首に法被を腰に巻きつけてだんじりを神社へと巡行。



穴太神社

7/12(日)
夏は子どもだんじりの巡行路の長さに驚く。秋は大人の布団太鼓。



許麻神社

7/18(土)19(日)
主祭神は牛頭天王、素戔鳴尊で京都・八坂神社の神輿と同形の六角神輿は八尾では類がない。青年団は躍動的な大紋の巴紋と裾柄の市松模様を施した法被を着る。布団太鼓が久宝寺町内町を先導して進む。



八尾神社

7/18(土)19(日)
旧西郷・木戸村の氏神で合祀の後、八尾神社と改称。境内に神輿、布団太鼓、子供太鼓が並ぶ。大紋は木瓜(もっこう)紋。初めは他地区で「きゅうりの切り口に似てるやう、きゅうり紋や」「きゅうりもっこうや」と聞く。
後で詳しい人から「御簾の上部につく絹織物の帽額(もこう)の模様(窠紋)鳥の翼を象る」からそう呼ばれて、京都・八坂神社の祭りである祇園祭でも同じ紋が使われている。主祭神が素戔鳴尊(須佐之男命)すさのおのみこと、別名・牛頭天王)の紋」と聞いた。この主祭神を祀る神社が市内に多いことから、大紋に木瓜紋を施した法被は多い。



太川神社

7/18(土)19(日)
緑地に神紋である巴紋。巴は弓手に装着する鞘、勾玉、雅楽の大太鼓に描かれた玉珠水の渦巻きなどのいわれがあり水害から守られるようにとの願いが。巴紋を神紋にしてはいる神社は多い。



渋川天神社

7/18(土)19(日)
写真の法被は氏子総代のもの。柄は北町会、東町会、西町会と地区ごとに色や裾柄も違う。祭りの取りまとめは年ごとに交代で行っている。



御劔神社(刑部)

7/18(土)19(日)
法被の裾柄の波は涼やかで、波の上を千鳥が跳ぶ。大紋は木瓜紋。夜の宮入りでは担ぎ手たちの熱気で布団太鼓が揺れる。



柏村稲荷神社

7/18(土)19(日)
裾柄は雲。大紋には宝珠(玉)。



やまばと子供会 八尾天満宮

7/19(日)
祭りの朝、八尾天満宮を出た子供会の布団太鼓は八尾ファミリーロードのアーケードを通り、交通量の多い街なかを大人たちに守られながら進む。



八尾木西第2町会 夏祭り

7/19(日)
布団太鼓と樽神輿が町内を巡行する。世話人の人たちが、神社のない地域なので子供たちに自分たちのまじりの祭りをつくってやりたいたと始められた。今でも、引越しや結婚でまちを離れた人も子供を連れ、祭りの時期や年末の餅つきに帰ってくるのだとか。



弓削神社(東弓削)

7/18(土)19(日)
布団太鼓と神輿、祭りに集う人々が神社でお祓いを受けた後、日中の布団太鼓は、子供たちが引く綱で巡行し、その後を行くのは、氏子の大工さんが神社に奉納した女神輿。巡行は30年を過ぎて続いている。担ぎ手の法被は色違いの同柄。鈴を鳴らし「ホヤセ、ホヤセ」と前後で声を交わしながら進む。夜の宮入りにぎわいは周囲からの声援や拍手が起こり、神輿を納めた後、担ぎ手たちは大うらわで布団太鼓の担ぎ手を扇ぎ、「ヨイヤサージャー」の声援を。昨年新調した青年部の法被は黒。氏子法被の柄を生かしながら袖は細く長い。大紋は橋。



夜、疲れはピークでも担ぎ手のテンションは最高潮



高安祭り

(玉祖神社)

7/18(土)・19(日)

(神立・楽音寺・大竹・水越・千塚・大窪・山畑・服部川・郡川・黒谷・垣内)

5月下旬から、高安山のやまねき(山麓)ではそれぞれのまち(口カ村)の幟が立ち並び始め、太鼓台の巡行の道を見えてくれる。本宮の朝、大阪平野を見下ろす玉祖神社の境内では祝詞とお祓いの後、神興・布団太鼓と水越の布団太鼓が担ぎ上げられ、勇壮な宮出が行われる。日中のそれぞれのまちでの巡行を終え、大窪・山畑・服部川・郡川の布団太鼓のかき合いは服部川交差点東で、夜、松の馬場の鳥居前では神立・楽音寺・大竹・水越・千塚の布団太鼓が集まり、伝統のかき比べでにぎわう。



松の馬場でのかき比べに水越の太鼓台がやって来た

玉祖神社下と服部川八幡宮境内の倉庫に納められた歴史あるだんじりも、祭り当日には見ることが出来る。

●神立

宮本(玉祖神社の地元)の名の下、勢いのある流線形の稲穂が描かれている。表紙は松の馬場鳥居前での神立地区の布団太鼓。

●楽音寺 熊野神社

巴紋に裾柄は「吉原」「太鼓会」の法被の背には、熊野神社の神さまの使いの八咫鳥(やたがらす)が裾の波の上に。担ぎ手の首の後ろに出来た大きな担ぎだこが祭り好きを物語っていた。

●大竹(賀茂神社)

裾には「竹」。大紋には保存会「桜竹会」から「桜」。子供と大人2台の布団太鼓が心合寺山古墳沿いの街道を巡行。

●水越(都夫久美神社)

地元の方は「三宝さん」と松葉で。保存会OBの方は「裾の模様は美しかった松の馬場の松並木から松葉をあしらひ、紋には勢いのある火焔をめぐらした太陽(神)とその中に満月。上部を雲が漂う様を表し、天候に恵まれ五穀豊穡を祈って作ってくれた。その法被を身に着けることで、担ぎ手たちが力いっぱい布団太鼓を担いで向こう一年無事に過ごせるよう願っている」と、奥様の父上がデザインしたという法被を語ってくれた。

●郡川(牛頭天王社) 地元・高安山を源流に恩智川へ流れ込む郡川の水を表していると思える。他に地区委員の法被は白地に黒く二の字の総柄。郡川総池横の広いお旅所には、祭り当日、布団太鼓とだんじりが並ぶ。2台が街道を巡行する姿は見事。

●千塚

紺地に裾模様は波。大紋は丸の中に「千」の字が図案化されている。団長の背の紋様には金の刺繍が。

●大窪

裾の石垣文に巴の紋。白地の法被裾には青海波。保存会「山王会」の法被は黒地に模様。お旅所の太鼓台取納庫が、祭りに向けて新築された。

●山畑(佐麻多度神社)

ずつしりとした布団重ねは3段。だんじりは今はないが、「祭りの後だんじりを池で洗った」と神社東の山手にある池に「だんじり池」の名が残る。裾模様は波。青年団、保存会、子供会など色違いが5種ある。

●服部川(服部川八幡宮)

裾柄は力強い雲。大紋は巴紋。「祭りには布団太鼓が巡行するが、元々はだんじりやつた」と地元の方は語る。

●黒谷(熊野権現社)

裾柄は波。大紋は熊野権現社の神様の使いである「八咫鳥(やたがらす)」が三羽。もう一種類は白地。袖裾にも波があしらわれ、裾柄の波とともに青く染め抜かれているが、それぞれの裾の波の形に違いがある。

●大内

「大紋は対かい巴。青年団の団旗も同じで「内」の文字にも似る。裾柄で「垣」根を表したが、恩智が兎なので、亀甲柄」とデザインした青年団OB氏。

●御領II万願寺中八幡神社

法被の背中には大きな本房が描かれ、御領太鼓台の布団下段に付けられた大きな本房が揺れるさまが浮かぶ。右袖には八幡神社の神様のお使いの鳩が施されている。染め元は香川県豊浜町。

●比枝神社

布団太鼓が住宅街の狭い道を縫うように巡行する。少しグレーがかった相生町青年団の法被は、裾に御所車の車輪を文様化した車文(くるまもの)が連なった独特の柄だ。

●八王子神社

法被はないが、子供たちが担ぐ神興を大人が支え神社の界隈を巡行。

●栄親会町会

八尾天満宮の祭日に執り行われる。太鼓台は町の人たちの手造りで2代目。役員の方によると赤い布団も手作りだと。法被は勢いが良いからと波の裾柄。

●八尾天満宮

大紋は天満宮神祇の梅鉢。太鼓台は「枕太鼓」。黒い台座には青緑の飾り幕に白い神紋。太鼓台の前後の赤い枕には金の神紋が施されている。

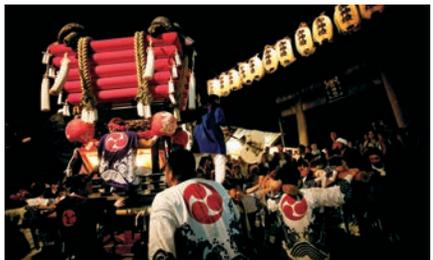


●洪川神社

7/25(土)・26(日)

25・26日の宵宮・本宮とも、洪川神社境内は夜店が多く並び、夕方から深夜にかけての予定時刻になると、合わせて9地区の神興、布団太鼓やだんじりが宮入り・退出をして、祭りを楽しむ人々のいざいざとともに暑さと熱気に包まれる。

安中ひまわり子供会は布団太鼓の大修理が済み、5月31日に神社で完成の入魂式が執り行われたばかり。



洪川神社へ宮入りする植松東青年団

●安中ひまわり子供会

昼用・夜用と2種類の法被を持ち、昼用は水畑つばき子供会の法被と同柄。夜用は裾に荒波文、袖には青海波(せいがしほ)。

●安中地域青年団

全国水平社の旗「荊冠旗(けいかんき)」に由来し、誇り高く生きていくことを表現している。このTシャツ。



●仲よし子供会(植松町)

熨斗(のし)は延寿をあらわす吉祥文様。これは「東ね熨斗」をさらに威勢よく描いた「暴れ熨斗」

●植松西子供会

旭園(南植松町)

●永畑つばき子供会

植松東青年団

●植松東子供会

陽光園 あやめ子供会

●安中ばら子供会

青年団の法被の背には大きく薔薇の文字が。

●洪川神社

祭りに限らず、神社の年中行事で氏子さんたちが着る法被。グライダーンが渋い。



万願寺まつり

7/25(土)・26(日)

万願寺青年団や各保存会で担ぎあげられた布団太鼓は、それぞれの神社を出て、休憩所で4台が揃う。夜の住吉神社でのかき競いもにぎやか。

●万願寺北(式部御野縣主神社)

太鼓台の布団下部を引き締める金の綱を表わすような背中の力強い綱。左袖の紋は御野縣主神社の神紋の沢瀉(おもたか) ※P7参照



ちよつと休憩する万願寺南の太鼓台

●御領II万願寺中八幡神社

法被の背中には大きな本房が描かれ、御領太鼓台の布団下段に付けられた大きな本房が揺れるさまが浮かぶ。右袖には八幡神社の神様のお使いの鳩が施されている。染め元は香川県豊浜町。



●東郷夏祭り

7/25(土)・26(日)

旧村名東郷の神社であった東本町の長柄神社は、現在は矢作神社に合祀されている。長柄神社跡の石柱が残る境内は公園になっているが、夜の担ぎでは往時の宮入りのにぎわいを感じさせる。

●八阪神社

7/25(土)・26(日)

素盞鳴尊(すきのおのみこと)を祀る西山本の八阪神社の神紋は木瓜紋。青年団の着る黒地の木瓜紋が、大紋、袖紋や前身ごろ、後ろ身ごろで法被を包む。神紋に守られつつ、豪快に布団太鼓をかっく。

●比枝神社

7/25(土)・26(日)

布団太鼓が住宅街の狭い道を縫うように巡行する。少しグレーがかった相生町青年団の法被は、裾に御所車の車輪を文様化した車文(くるまもの)が連なった独特の柄だ。



神劔神社 田井中 ▼
7/25(土)・26(日)

戦後、秋祭りに布団太鼓が登場、後に夏祭りに担ぐようになった。志紀保育園前もお旅所になっている。大紋は木瓜紋で裾は吉原。



御劔神社(南老原) ▼
7/25(土)・26(日)

背の大紋には南老原の文字が木瓜紋の上に。襟には「御劔神社・MYC(南老原ヤングクラブ)」と。同会は地域の祭りその他を支えて今年で創立45周年。



杵築神社(東老原) ▼
7/25(土)・26(日)

東老原の氏神で主祭神は素盞鳴尊。村の守護、五穀豊穣と厄病害虫祓い祈念の夏祭りは布団太鼓の巡行とともに続く。法被は左右を鮮やかな青と白で染め分け、神紋である木瓜紋を袖と裾に据える。



白山神社 ▼
7/25(土)・26(日)

青年団(子供会)の法被の背には黒で三重の六角棒の中に撫子らしき花紋。他に青地に波の裾柄、木瓜紋の中に西老原の「西」が入った青壮年会と奉賛会の法被も。当日は大きな太鼓が社殿に出される。



稲生神社 ▼
7/25(土)

裾柄と袖には青海波。大紋は稲と桜の花が描かれている。



弓削神社(弓削町) ▼
7/25(土)・26(日)

裾柄は菊水。大紋は神社の神紋。染め元は岡田染工場(〒8)。幟、横断幕も染める。こともたちも同じ柄の法被、白い地下足袋の祭り装束に身を包む。宮出の後、布団太鼓と神輿が志紀商店街を勇壮に走る。



西フレンド子供会夏祭り ▼
7/26(日)

府宮志紀住宅で子供会の夏祭りが続いってきた。布団太鼓の布団は三段。小学生高学年用と低学年用の2台がある。高層の府宮住宅の道を子供たちが元気に布団太鼓を巡行する。



矢作神社 ▼
7/30(木)・31(金)

布団太鼓の巡行の後をギャル神輿が進む。別宮成法寺、今井(現南本町)の担ぎ手たちが着る法被は青一色の袖なし。巡行はないが、今井の布団太鼓も今井会館に出され、巡行の休憩時には2台の布団太鼓を間近に見られる。



高美町4丁目子供会 ▼
7/30(木)・31(金)

矢作神社のお祓いを受けて巡行する布団太鼓は、町の人の寄付と手作りによる。30年以上前から地域の夏祭りの中心にある。



二俣夏祭り ▼
8/1(土)・2(日)

黒地に白く、二俣の「二」の字の総柄。大紋は木瓜紋の中に志紀東の東が角文字で入る弓削神社のお祓いを受けた布団太鼓が真夏の長瀬川沿いを行く。



太陽の広場ふれあいまつり ▼
8/8(土)・9(日)

近隣町会の夏祭り。広場では子供神輿の巡行のあと、バンドのライブや河内音頭、抽選会など楽しみが続く。法被は鮮やかな赤。



秋祭

加津良神社 ▼
10/10(土)・11(日)

布団太鼓とだんじりが神社前の公園に揃う。神社の境内で、婦人会の方たちが準備したぜんざい(土)や、お茶席(日)も楽しみ。布団太鼓の休憩所は地区集会所。明治6年(1873)に



創立した旧萱振小学校の雰囲気があることに気づく。

寶殿神社 ▼
10/10(土)・11(日)

黒地に裾柄は白波。地区である「沼の赤い大紋がひととき映えて勇壮で華やか。地域の人々が集まるお旅所の公園での布団太鼓とだんじりの担ぎ上げはにぎやかに執り行われる。



樟本神社(未の本) ▼
10/10(土)・11(日)

6年前より本宮の午後、堀公園では南木の本の樟本神社との布団太鼓の担ぎ合いが行われるようになった。それぞれの地区の代表者達が両側の椅子席から見守る中、布団太鼓を担ぎ上げる両青年団の気持ちは高まる。法被の背中に一杯に大きな結び鬘斗紋が描かれていて、9代ほど前の団長の頃に皆で考えたのだとか。そろそろ新調計画も立てられている。



赤、白、紺の三色が祭りに華を添える

樟本神社(南木の本) ▼
10/10(土)・11(日)

宮出、宮入に地元の人々の多くが集まり見守る。青年団の中には地元消防団員もいて地域とのかかわりも強い。裾柄は黒地に勢いのある波。



式内御野縣主神社 ▼
10/10(土)・11(日)

上之島(右)の大紋は沢瀉(おもだか)。「沢瀉はクワイに似た水草で武家の家紋にも多い。形が勇ましく、合戦でよく目立つ。事故や災害に遭わないよう、けがをしないようにとの願いが込められている。人間の背中は無防備なので、背中に紋をいたたくことは神様に守っていただくことになる」と宮司さん。社殿の要所に使われている。



上尾町の黒地に沢瀉でこちらは黒地に赤。大きな白い結び目が施され、その先は前身ごろの房へ。



太田地区秋祭り 太田八幡宮 ▼
10/10(土)・11(日)

(北町・巽町・田中町・西川町・東町・免田町) 本宮の日の午後には6町が集まり地域の公園や小学校でかき比べがにぎやかに行われる。今年は大正小学校にて開催。裾模様は北町・西川町が文字紋、東町が青海波、免田町は金輪紋に田の文字をのせているのではないかと、区長さんの弁。



かき比べで氣勢を上げる東町のだんじり

●北町 ●巽町

●田中町 ●西川町

●東町 ●免田町



杵築神社(佐堂町) ▼
10/11(日)

ことも会名の法被を大人も着る。大小の毛中丈(けまんもん)と裾柄

は市松模様。神輿と枕太鼓が巡行。太鼓台には紅白の幕が張られ、枕は赤。祭り当日には倉庫が開かれ、古いだんじりが見えることもある。



若林町秋祭り ▼
10/11(日)

若林町自治会館前に2台のだんじりが並ぶ。会館横の第2公園では餅つきやおでん、金魚すくいなども行われる。町の祭りとして数年前から始まった秋祭りだ。



三十八神社 ▼
10/17(土)・18(日)

両側に提灯が続いてかけられた広い参道の先には道の中央に鳥居が見える。阪神淡路大震災の後、崩れると危ないからと付け替えられた。その先の神社境内には2台の布団太鼓が。祭りを待つ風景もい。



由義神社 ▼
10/17(土)・18(日)

以前は夏祭りであったが、十数年前から秋祭りに布団太鼓が巡行するようになった。秋の夜、街道の四つ角では松明が焚かれ、担ぎ手たちの氣勢も上がる。神輿、女神輿も布団太鼓に守られ、巡行、宮入がにぎわう。法被の大紋は巴紋。裾柄、袖裾は地区名「八尾木」の文字紋。



長い影を引きずりながら祭りも終わりが近づく

西郡天神社 ▼
10/24(土)・25(日)

日中、だんじりの休憩所では子供たちも主役。だんじりの上で舞う龍踊りは見事である。法被は濃い緑の地に天神社の神紋が背中の大紋に。

新家町秋祭り ▼
10/24(土)・25(日)

旧い街並みや広い自動車道を巡行する、彫り物も見事なだんじりが秋を締めくくると、昨年は祭りの後トラックが鳴り、シャパンがふるまわれた。



祭と河内音頭 2015 MAP

地図=マップデザイン研究室

- ▼ふとん太鼓
- だんじり
- まくら太鼓
- 神輿のみ
- 河内音頭・盆踊り

※夏祭り・秋祭りはP2~7を、河内音頭・盆踊りはP10~11をご覧ください。



はっぴ展 7.5(日)まで JR八尾駅改札横南スペース/アリオ八尾2F・八尾市情報発信コーナー ※2箇所同時開催
夏と秋に各地区で行われる祭りの法被170点余りの写真パネルを一堂に展示しています。八尾のふとん太鼓・だんじり・まくら太鼓・みこしが巡行する祭りの日程を記載したマップやおの祭まつぶも併せて展示。急げ! 主催/「八尾の祭り」を楽しむわくわく実行委員会 ※問い合わせは八尾市観光協会まで ☎072-997-6226

何とやらやましい! 河内木綿の法被で祭に。

かつて河内木綿の生産織物で栄えた八尾。明治以降、安価な綿花や機械紡績、化学染料が普及し、藍染の河内木綿は姿を消していった。しかし、許麻神社では昭和12年に手紡ぎの河内木綿の法被が作られ、しばらく使われていたという。「手間をかけても自前というプライドでしょうか」と宮司の田中洋二郎さん。藍染特有の白と紺のコントラストが、現代の法被とは違った趣を感じさせる。



昭和6年(1931)に太鼓台が新調されたときの集合写真(許麻神社蔵)
※許麻神社の河内木綿の法被は8.30(日)まで歴史民俗資料館にて展示中



こんなふうに生地をスクリーンの下に敷き、スキージを動かして染料を均等に広げる。緊張の一瞬だ

ものづくりの職人技は 法被にも存分に発揮される。

法被はどのように作られるのか、印染専門の岡田染工場を訪ねた。法被の図案、神紋の位置や裾柄を何にするか、厳格な決まり事があるのだろうか。「よその祭りでカッコいい法被を見て、うちもあんなのがいいとか、そんな注文も多いですよ(笑)。最近の風潮は丈がお尻半分隠れるぐらい短くなっています。岸和田だんじり祭の流れですね」とこの道50年の岡田明さんは語る。

岡田さんは表裏くっきりと図柄が染まる「両面捺染」(シルクスクリーン手捺染)を得意とする。手順は法被の図案をニス紙に彫り、紗に貼り付け、スクリーンを作る。まさらな生地をスクリーンの下に敷き、スキージー(へら)で染料を刷り込む。再現してくれたが、約3mの縦長のスクリーンを一気に通過…は、面白い! 「気温や湿度によって染料の粘りが違ってきます。それにより力の入れ具合や刷るスピードを変えるので、知識や経験が必要。重労働なので今は息子に任せていますが(笑)」

生地は一旦乾かし、染料を定着させるために家庭用サウナのような装置に入れて蒸す。そのあと洗濯機で余分な染料を洗い干すを数回繰り返し、図柄がクリアになれば染めは完了。生地をアイロンで整え、裁断、縫製すれば出来上がりだ。躍動する法被を見届けるのがなによりうれしと岡田さんは目を細める。



上/「八尾の法被も染めていますよ」と岡田さんと息子の元(はじめ)さん 左/弓削神社の職の版

岡田染工場
●柏原市古町1-3-21 ☎072-972-3339

あちこちで熱が入ってます！

2015八尾 河内音頭シーン。

櫓ぐらに上る人、踊る人、演者と一緒に歌う人、聞こえるだけで血が騒ぐ人……今年も河内音頭の夏がやってきた。いびき合いで世の中がギスギスしている今だからこそ、櫓を囲めば国籍も宗教も年齢も性別も所得も一切関係なし！の河内音頭にひとびとの関心がより一層集まってる。今年こそ、ぜひ本場で生の体験を！

イラスト：ザ・ロケット、ゴールド・スター 写真：内池秀人ほか 取材文：中島淳(本誌)

新しい詠み手たちを生み出す「こども音頭とり講座」に注目！

八尾市が河内音頭の振興を目的に行っている「こども音頭とり講座」も5年目を迎え、毎年約10人の少年少女音頭取りが輩出されている。申込は定員の3倍近くとなり、オーディションで選ばれた精鋭が虎の穴ならぬ本町のシルキーホールなどで、4～8月の8回にわたって指導を受ける。講師陣は地元音頭愛好家ではなくプロ中のプロである八尾本場河内音頭連盟の師匠方だ。

見事修了した彼らの卒業公演は、9月6日(日)に久宝寺緑地で開催される「八尾河内音頭まつり」の特設櫓で音頭を取ること。左頁の写真のごとく数百人の踊り手を前に、鍛えた節回しを披露するのはたまらないだろう。今、音頭取りも太鼓、ギター、キーボードもすべて小学生というユニットも計画中だそう。



師匠のライブで初舞台に立ち、観客の視線にも慣れていく。8.23(日)の河内音頭やおフェスタほか地区の櫓にも彼らが登場



「イヤコラセー ドッコイセーと合の手は大きな声で入れる」。八尾本場河内音頭連盟会長・美好家肇師匠のひと言にみな真剣

踊り手の道はぜんぜん遠くない。河内音頭踊り講座／河内音頭記念館

八尾市では「伝統文化である河内音頭を広め、踊りに親しむ市民を育成する」ということが重要な施策のため、河内音頭の踊り講座を毎年夏に必ず開催している。また八尾の魅力大使である河内家菊水丸さんが館長を務め、すっかり界隈の名所となった河内音頭記念館では館長の名演DVDが流れる中、踊りの先生・山川博子さんから代表的な踊りも教えてもらえる。週に5日ほどなので、電話で確認してどうぞ。「踊ったことがない」「動きがつかない」「人でも、先生のちよつとした指導を受ければ、櫓デビューは近い。」



踊り講座は8.5(水)、18(火)、26(水)の3回、八尾商工会議所大ホールにて開催。申込方法は八尾市のHPなどで



「手踊りから行きましょか」と山川先生。本場・常光寺は目と鼻の先だ。河内音頭記念館☎072-995-1555



河内音頭と盆踊り

7/5日 17:00
第5回河内音頭と和菓子の日
興兵衛桃林堂(菊水丸氏) 2000円

7/18日 9:30

「八尾探一企画」河内音頭を体験しよう
河内音頭記念館で音頭講座ほか
※申込は八尾市観光協会まで電話で。
先着10名。1000円

7/18日 13:00

河内音頭パレード&定期公演
ファミリーロード内(山城町一丁目)第1公園
☎072-99249375(八尾市魅力創造室)

7/24(金)25(土)
高砂町高砂住宅盆踊り大会
中央公園

7/25(土)
八尾河内音頭まつりプレイベント
アリオ八尾1Fレッドコート 13:00

山本小学校盆踊り大会 同小学校
曙川東地区 世代を越えたふれあい祭 曙川東小学校

7/25(土)26(日)
西木の本盆踊り大会
宮地公園(西木の本二丁目公園)

8/1(土)
世代を越えたふれあい祭り
盆踊り大会 刑部小学校
上之島地区納涼盆踊り大会 同小学校
納涼盆踊り大会 高安西小学校

8/1(土)2(日)
木の本盆踊り大会 木の本公園

8/2(日)
東郷民踊会 長柄神社跡公園

8/7(金)
ライフサポートおいら
後援会盆踊り大会
ライフサポートおいら広場
流し節正調河内音頭の夕べ
常光寺境内

8/8(土)
納涼西郡盆おどり大会 幸第2公園
太田地区盆踊り大会 太田第2公園

8/9(日)
太陽の広場ふれあいまつり 同広場

8/13(木)
慧灯大師盆踊り 萱振御坊恵光寺
陽光園地区ふれあい盆踊り大会
安中小学校

8/22(土)
白百合こども会盆おどり大会
老原第2公園

8/23(日)13:00
河内音頭やおフェスタブリズムホール

8/23(日)24(月)
八尾地藏盆踊り 常光寺境内
久宝園地藏盆祭 久宝園公園

9/5(土)6(日)
西山本八阪神社
奉養会盆踊り大会
西山本町八阪神社内

9/6(日)
八尾河内音頭まつり 久宝寺緑地
久宝寺内町燈路まつり
久宝寺内町帯

9/12(土)
友達の会クリアールワン
第4回八尾市民納涼大会
コーナン外環八尾山本店駐車場

「ザ・河内音頭の聖地」はここだ。八尾地藏盆踊り

全国の河内音頭好きが最も注目するのが「8月23日と24日の常光寺」だ。各地から踊り手が集まり、櫓の周りは異様な熱気に包まれるが、語り芸の愛好家からダンス・ミュージックのファンまで客層も年齢層も美に広いのが特長で、最近では外国人観光客もよく見る。八尾の魅力大使・河内家菊水丸さんも中学3年だった昭和52年(1977)以来、毎年必ず櫓に上がっている。



出番前でも滝のような汗が。太鼓の久乃家翼さん

大阪から電車で10分程度の距離なのに、夜空の闇が深く感じられるのも常光寺ならではの風景だ。



夜も更けてきたあたりで菊水丸氏が櫓に。氏の自伝的小説『音頭ボーイ』には初めて常光寺の櫓に上がった日のことも詳述されている



当日は「八尾本場河内音頭連盟」の師匠たちが櫓に上がる。澄んだ夕空の下、カラフルな踊り手たちの輪の中へぜひ!

広い空の下で熱狂、夜は静寂に。八尾河内音頭まつり 久宝寺内町燈路まつり



八尾河内音頭まつりの会場から久宝寺内町に向かって歩くと、許麻神社の幻想的な明かりにお出迎えされます



顕証寺の山門前。河内音頭にこれほどふさわしい舞台装置もちよつとないのでは。地元ボーイズはこんな頃から踊る

9月6日(日)は「河内音頭の盆踊り」の締めくくりに。久宝寺緑地の広大な陸上競技場が河内音頭好きで埋め尽くされるのが「八尾河内音頭まつり」だ。八尾の人気店や全国のうまいもん屋台やマルシェもお目当ての一つだし、踊り手の「グラプリ発表」だけでなく、ダンスコンテストや吹奏楽演奏、大道芸、リサイクルフェアなどさまざまな催しも飽きさせない。真夏に比べて意外に早く訪れる夕空の澄み切った青さに季節の流れを感じてしまう。同日日の夕暮れに、そこから徒歩10分程度の久宝寺内町で「燈路まつり」が開かれる。そのしめくくりは「御坊さん」と親しまれる顕証寺山門前での盆踊りだ。太鼓とギター、三味線に音頭取りの声がかぶさる同じ音頭でありながら、昼間は「高らかに」歌われたものが夜には「一転、もの哀しさ」に包まれる。けれど悲痛なものではなくむしろ、「人は死んでもまた新しい命が生まれ、時代が続いていく」と教えてくれているような気がして、顕証寺ならではの静かな感動を覚えます。9月6日はぜひ両方を体験してください。

季節のピンポイントレッスン いいとこ見つけた! 噂のビルの屋上。

ヒマラヤンキッチン カビタ 屋上ビアガーデン

●9月まで(予定)17:00~20:30



「ネパール大地震救援活動にもご協力を」とデベンドラさんと奥さんのカルバナさん。「カビタ1周年&さつ夏の夕べ タミライブ」は7月25日(土)17時半~20時半、飲み放題・食べ放題4000円(要予約)。1人からでもOK。

カビタ

●八尾市本町2-1-2 ヒマラヤンビル1F
☎072-994-0766 11:00~14:30
17:30~22:30 無休

夏の夜空を見上げながらふはあ〜と楽しむビアガーデン。以前は八尾にもあったが、長い間不在でビル好きは寂しい思いをした。しかし朗報。八尾市役所近くのインド・ネパール料理ヒマラヤンキッチン「カビタ」の屋上が夏季

限定でビアガーデンとなり、人気を得ている。ビル名(ヒマラヤンビル)は、世界の屋根。だが建物は3階。そんな低い場所までと侮つてはいけない。交差点角に建つため、予想以上のワイドビューな景色にびびり。ときおり心地よい風が吹き、いいとこ見つけた。気分だ。

世界の屋根、まではいかないにしても眺め良し。5人以上から予約を。1人ドリンク5杯、ナン3種とカレー3種食べ放題、ネパール風ぎょうざや焼きそばなど料理数品のパーティープラン、1人4,500円



「香辛料を使った伝統的なインド・ネパール料理は体にいいですよ。おいしいからといって飲み過ぎないように(笑)」とネパール人シェフのカレル・デベンドラさんの言うとおり、胃袋が刺激され、アルコールがハイビッチに。ビール&枝豆もいいが、スパイス料理との相性も抜群だ。デベンドラさんは学校に通わず、12歳のときインドに出かけて料理を学び、修業したという苦学人。15年前に来日し、八尾の店で8年間働いて昨年開業した。「八尾に長く住んでいるので、友達がたくさんいます。農家のおじいちゃんや仲間になり、野菜を分けてもらうことも。地元の人々に安くておいしい料理を食べてもらおうのが喜び」と笑顔で語った。

取材文:きむあつこ 写真:中尾あづさ

駅チカ観光名所

400年の歴史を現代に橋渡し。 まち歩きに絶好のひと休み場。 八尾市まちなみセンター 寺内町ふれあい館(JR久宝寺駅)



ふだんはこのとりのどかだが、「燈路まつり」(P11参照)では1千基余もの燈路が灯り、音楽ライブや屋上等でにぎやかになる

歴

史が息づく久宝寺寺内町。蓮如上人が建立した顕証寺を中心に戦国時代にまちが形成され、強固な自治組織によって守られた。町割りはほぼ当時のまま。近鉄久宝寺口駅にもほど近く、ごっそり宅地開発されてもおかしくない場所に、江戸時代の道標や地蔵、町家が数多く存在するのは奇跡とも言える。「地元の高い思いが寺内町を守ったんですよ」と館長の畑一男さん。

平成12年(2000)に歴史的遺産の継承を目的に寺内町の整備事業が始まり、



寺内町に点在する地蔵尊のひとつ、安産地蔵尊。この佇まい、ほっこりしますね



館長の畑さん。館内には寺内町の歴史資料や文化財の展示、まちづくりの情報コーナーもある。会議室の利用は3時間300円〜、お手頃です

1万人以上が寺内町めぐりで、遠方からも来られますよ(畑さん)。

寺内町を詳しく知りたい人はボランティアガイドと一緒に歩こう。そのお一人、谷浦政男さんは「何ひとつ残っていない久宝寺城址や稀代のイケメンだったという長宗我部盛親の物見の松址とかマニアしか知らないネタが満載。ものすごく面白いまちですよ。寺内町めぐりは、自分のまちの成り立ちに想像力を働かせることにもつながる。

取材文:きむあつこ 写真:藤岡みきこ

**八尾市
まちなみセンター**
●八尾市久宝寺3-3-20
☎072-924-6371
9:00~17:00 月曜休

生

まれば田辺(和歌山県)ですが、5歳の時に引越してきました。八尾の人の多さにびっくり。お母さんに背負われて初めて河内音頭を聞いた盆踊りも人だかりがすごくて、なかなか前に行けませんでしたが、でも幼心には住みやすいと感じました。人情が厚いんです。近所の人みんな仲が良く、助け合って暮らしていました。

遊びに行くのは決まって大聖勝寺寺でした。太川神社のお祭り(P3)も楽しみでした。だんじりを曳いて、太鼓を叩いて。腕がしんどくなっても、ゴールすればおにぎりやおやつがもらえるから頑張りました。

八尾空港も大好きな場所です。遊覧ヘリコプターに乗った時の8ミリフィルムが残っていますが、画面はヘリの爆風で大揺れ、私はずっとわんわん泣いているだけ。当時はただただ怖かったけど。

鮮烈デビューと雌伏の時期。

八尾で我が家にテレビが登場し、「テレビに出てみたい!」と思ったのがすべての始まりです。6歳で毎日放送の「素人名人会」に出て中尾ミエさんの「可愛いベイビー」を歌い、名人賞。地元で「よしみちゃん歌って」と声がかかるようになり。近くに豆腐屋さんの揚げ物工場があって、よく休憩時間に裏の広場で従業員さんの前で歌いました。みんなの表情が一瞬にして和む。歌の力を実感した原点です。

木の本へ向かうでこぼこ道も懐かしい。お父さんの自転車の後ろに乗って、熱帯

ヤオマニアの横顔

歌手

天童よしみさん

「木の本に向かう でこぼこ道で 生まれたのが、 私の演歌です」



なじみの和菓子店【與兵衛桃林堂】の前で。江戸時代に建てられた茅葺き屋根の町家(国の登録有形文化財)は彼女のお気に入り。デビュー曲「風が吹く」の取材写真もここで撮影した。河内木綿のこの暖簾は毎月10・11日と26・27日、「お連夜」市の日にだけ掛かる

真剣で、教えるうちに私の歌も磨かれました。映画監督三池崇史さんのお母さんも生徒さんでした。やがて教室が増え、大きな会場を満員にして発表会ができるようになり、「このみなさんに天童よしみの歌を歌ってもらえなアカン」という思いが強まりました。

人の縁つて不思議です。生徒さんが梅田のカラオケスナックで「歌、うまいね。誰かに習っている?」とティチクレコードの部長さんに声をかけられたのが縁でティチクに移籍、「道頓堀人情」につながりました。八尾に戻って11年目でした。

行き詰まった時に温かく包んでくれたふると、それが八尾です。東京の歌手仲間にも「帰るところがあるっていいね」とうらやましがられます。

来春には八尾市文化会館プリズムホールでコンサートの予定です。地元で歌うのは本当に楽しみです。いつも前の晩は眠れないぐらいです。

取材文:佐藤千晴 写真:内池秀人

歌謡教室の先生がきっかけに。

悩んだ末に八尾に戻り、歌謡教室を開いたのが20代の初め。生徒さんはみんな



與兵衛桃林堂の店内で記名帳に毛筆で記帳。まさに墨痕あざやか。「東京にいても、最終の新幹線に飛び乗れば八尾の家に帰ってきます」

てんどうよしみ
本名は吉田芳美。八尾市立龍華小学校、龍華中学校卒業。フジテレビ系「日清ちびっこのどじまん」優勝をきっかけに1970年にテレビアニメ「いなかっぺ大将」の主題歌「大ちゃん数え唄」をレコーディング。72年に読売テレビのオーディション番組「全日本歌謡選手権」で10週勝ち抜き、「風が吹く」でデビュー。85年発売の「道頓堀人情」が大ヒット、96年の「珍鳥物語」はミリオンセラー。NHK紅白歌合戦には93年以來19回出場。今年2月に新曲「いのちの春」「いのちの人」を同時発売。12月12日~19日に大阪・上本町の新歌舞伎座で公演。

ヤオマニアの心ふるわす夏～初秋カレンダー

※会場はMAPでお確かめください。イベント予定は変更になる場合があります。詳しくは八尾市観光協会まで☎072-997-6226

7.2(木)・3(金) 八尾市観光キャンペーン
●地下鉄大日駅(守口市) 17:00～19:00
→八尾えだまめ等の直売

7.18(土) 旬食マルシェ
●グランフロント うめきた広場(大阪市北区)
→八尾えだまめ、ぶどうの販売

7.18(土)～31(金) 八尾商業まつり
●八尾市内の小売市場や商店街、専門店など
→期間中、ポスターやのぼりがついた参加店で買
い物をすると金券などが当たるスクラッチカードを
進呈。参加店は開催直前の新聞チラシにも掲載
☎072-922-1181(八尾商工会議所)

7.25(土) 八尾バル
●近鉄八尾駅・河内山本駅・JR八尾駅の周辺
12:00～
→八尾産の旬食材をほしごで味わう飲み歩きイベ
ント。「八尾えだまめ+α」がテーマで、新たにJR八尾
駅周辺の店舗も参加。詳細は八尾バルHPで

8.15(土)・16(日) 万灯会
●大聖勝軍寺

●えだまめ掘り取り
7.19(日)・20(月) 山中農園 9:00～
→参加希望はハガキでお申し込み。
〒581-0020堺川東3-16 山中農園(畑は八尾木)

●**今東光資料館**
～9.13(日)まで
企画展示「東光の群像～河内の今東光～」
→肖像写真や寄贈資料から、河内住人としての東
光の日常を紹介 ☎072-943-3810

●**安中新田会所跡旧植田家住宅**
7.12(日)まで 企画展「植田家と新田開発」
7.16(木)～9.27(日) 企画展「植田家の陶磁器」
→植田家所蔵の陶磁器コレクションを一挙公開
☎072-992-5311

●**八尾市立しおんじやま古墳学習館**
しおんじやま学び場(講演会)
8.1(土) 近代日本の古墳保護について
→講師 尾谷雅比古(河内長野市立図書館地域
文化遺産啓発専門員)当日先着30名、無料
9.5(土) 妖怪学入門
～流行りのキャラから地元の妖怪まで

→講師 福田祐美子(八尾市立しおんじやま古墳
学習館)当日先着30名、無料

8.8(土)～8.31(月) しおんじやま夏の体験まつり
→ハニワ貯金箱作りなど、期間限定の様々な体験
プログラムができる
☎072-941-3114

●**八尾市立歴史民俗資料館**
8.23(日) 河内木綿 親と子の体験学習
→綿摘み・綿繰り・糸紡ぎ体験や、好きな文様を彫っ
て藍染するテーブルセンターづくりなど。参加費
1,000円、定員15組、申し込みは8.1(土)～13(木)まで
9.2(水)～10.26(月)
企画展「河内木綿商 嶋屋治三郎」
→八尾の木綿商人「嶋屋治三郎」の活動と「嶋治」
で使用されていた河内木綿を紹介
☎072-941-3601

※夏祭りについてはP2-9で、河内音頭についての
詳しいスケジュールはP10-11でご紹介します。

OSK日本歌劇団期待の星、
八尾出身・悠浦あやと主演公演「プリメール王国物語」に
Yaomania読者ペア3組(A席)をご招待します。

7.25(土) 近鉄アート館(あべのハルカス近鉄本店ウイング館8F) 16:00～
※7.15(水)まで八尾市観光協会にて電話受付☎072-997-6226
応募者多数の場合は抽選。
当選者発表はチケットの発送をもって代えさせていただきます。



表紙「高安のお祭り」

夏が来るとまちは活気に満ち溢れます。八尾と言えば全国的に河内音頭が有名ですが、それに負けないほどのお祭りがあります。七月から十月末にかけ、由緒ある数々の神社で立派な布団太鼓や神輿やだんじりがまちを回って行きます。地域ごとの祭りを担う法被を着た人たちは、年長の方が青年団を指導し、魅力ある祭りへと磨きをかけていきました。そして治道で一途にその勇姿を見ている子供たちへと受け継がれてゆきます。(須飼秀和)

すがい・ひでかず 1977年明石市出身。日本の原風景や人々の営みに映る郷愁をテーマに描く。著書に『私だけのふるさと』(岩波書店)、『うなぎのうーちゃんだいぼうけん』(福音館書店)等。毎日新聞朝刊(兵庫版)にも連載をしている。

●Yaomania第10号(秋号)は9月中旬発行 大喫茶天国・八尾

発行=一般社団法人八尾市観光協会
編集=株式会社140B 表紙絵=須飼秀和
デザイン=山崎慎太郎 印刷=図書印刷株式会社
※記事の情報は2015年6月15日時点のものです。



Yaomania表紙絵のポストカードが誕生!

昨年3月の発刊以来、大好評のYaomania表紙。作画の須飼秀和さんもち多忙なスケジュールの合間を縫って八尾を訪れ、誰にも描けない温りのある「八尾の風景」を描き続けています。読者の皆さまから「ぜひ原面展をやってほしい」とのリクエストに応え、まずはポストカードを作ることになりました。6枚セット。どこの場所で描いたのかが一目で分かるマップ付きです。近鉄八尾駅真下の八尾市観光案内所で販売しています。ぜひ。

まずは2014年発行の表紙から6枚。これから毎年増えていくと思うと、楽しみ。須飼秀和が描く八尾の風景 600円+税 八尾市観光協会 ☎072-997-6226



パン屋は街の入り口だ。⑥

天王寺屋 スワール

志紀にいた！絶品のパン&スイーツを作る凄腕職人。

オープンしてまだ4年だが、老舗の風格というか、際立った様子が伺える。八尾の有名パン店で修業を積み、右腕と認められた職人、野村ともみさんが腕を振るっているからだ。「志紀のおいしいパン屋さん」という口コミが瞬く間に広がったのもうなずける。「店を構えるとき、八尾のどの辺にしようかと相当悩みました。僕は柏原出身だけど、ここが生活圏だったのと、そもそも妻が志紀なので、地元を活気づけたいと思い、今の場所を選びました」と料理人である夫の野村恭博さんは言う。



「JR志紀駅の裏なのでまだ知らないお客さんもおられます。このあたりで商売を頑張っている人たちと一緒に地域を盛り上げていきたいですね」と野村さん。大阪市内(谷町7丁目)の産直店「とまと家族」で週2日(月・木曜)、出張販売も実施中

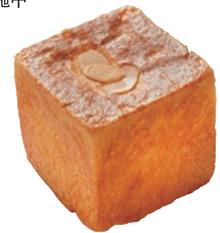
「僕がかつて働いていたアジアンダイニングバーの名前を引き継ぎました。でもパン屋なので(笑)、店内はフランスのおしゃれなカフェをイメージしています。2階で料理を提供するのが夢なんです(恭博さん)。」
写真にはないが、フランスパンのバゲットはパリッとした皮の風味と中のモチモチした生地のバランスが絶妙で、「八尾にこんなレベルの高いフランスパンがあるとは」とパン激戦区、阪神在任のフレンチシェフが絶賛していた。「本当においしいパンしか置きたくありません。それと体にやさしいものを

提供したい。添加物を極力排除し、惣菜パンには無農薬・減農薬野菜を使うとか。ソース類やカレーは夫のレシピですべて自家製です。手が込んで大変なんです(笑)ともみさん。スタッフにパティシエが加わり、スイーツも増やしていく予定。幸せになりたい。お客さんを虜にしたい。取材・文=きむあつこ 写真=中尾あづさ

スワール
●八尾市天王寺屋5-53
☎072-948-1839
7:30～19:30 日曜休
パンは約70種。年齢問わず、パン好きが引き寄せられるおしゃれな店だ



「シフォンケーキ」300円。無農薬紅茶とセミドライのいちぢくを練りこんだ逸品。パティシエならではの出来栄だ。プレーン、黒糖、ココア、よもぎ入りもある



「プリオッシュクリームパン」173円。しっとりふわふわしたパンは口どけがよく、バニラビーンズたっぷりの自家製クリームがこめられた口の中であざやかなひととき

「特製牛肉バラ肉のゴロゴロ入った焼きカレーパン」154円。固形ルー等を使わず、香辛料をじっくり煮込んだカレーはスパイシー。もちもち生地との相性バツグンの大人気商品!



「ゴボウと大葉のエビ」154円。フランス生地にゴボウサラダと大葉をマッチさせた、見るからに体に良さそうなお品。和風味がクセになりそう



「クレセント」106円。見た目、ツツン堅そうだが、意外と口どけがよく、表面のシチリア産無精製塩が味のアクセントに。オリーブオイルをつけるとさらに美味